

と云ふことはありません、又事實上いろいろの原因が複雑に交つて居ることを見るのであります。即ち歴史的にだん／＼顯はれて來ました右四つの説を總て存して、而して兒童の遊戯は之等各様の原因の總て、若くは特に孰れかに基くと云ふ事に考へるのが都合がよいと思ふのであります。依つて此の四つを一つに括つて兒童の遊戯の原因としたのであります。(つゞく)

○チレ毛の治療法

縮毛症の原因は未だ不明である、近來一種の黴菌が毛根に附着した爲めに起ると云ふ説もあるが、多くは先天的で、また營養神經の障害から來るものも此等は食事に注意して營養を良くするの一つの療法である、縮れ毛は輕いのや一時性のものであつたら風呂に入つた時毛を解き延した上を手拭で縛り蒸しながら直すのも効目があるそれから少し手重いのであつたら漢藥屋から甘草根の刻んだのを五匁程買つて來てそれに水五合を加へて煎じ、詰めた處でまだ熱い内に普通の癖直しの様にして用ゐると宜しい

子守の心得

樂天子

- 一、子守の役目  
第一、子守の役目最も重い役目であります。
- 二、子守は、父母、主人其の他目上の人に對しては、其の命令に従ひ教師の教へは確く守つて一心に己が役目を勉めなくてはなりません。
- 三、子守の心の善惡は、すぐに子供の心にうつるものでありますから、子守は常に正しい心でなくてはなりません。
- 四、子供は又子守の行を眞似るものでありますから、子守は常に禮儀を重んじ言葉遣立居ふるまひにも氣をつけ子供のよき手本とならなくてはなりません。
- 五、子供は親切に取りあつかひ、猥りに叱つてはなりません、子供は愛されるれば愛される、程その人になつくものです、然し無暗に子供の機嫌を

取つて我儘のくせをつけてはなりません。

六、子供こどもの身體からだは、極めてか弱いものでありますから、常に衛生えんせいに氣をつけねばなりません。

第二、子供こどもを負おふ時の心得

一、子供こどもを負おふ、結びつけ帯おびは、大幅おほはばの天竺木綿てんぢくめんで長九尺以上のものがよろしい。

二、子供こどもを負おふには、結びつけ帯おびを子供こどもの脇下わきしたに取り、子守こもりの胸むねにて一つ結び後へ廻まはし、幅わたりを廣げ子供こどものおしりを包つつむやうにして、二度前にどまえにまはし、ゆすり上げながらしめ結びてすり下さからぬ様ようにするのです。

三、子供こどもを負おふに股またを廣ひろく引き分わけてはなりません。

四、子供こどもの眠ねむつた時は、手拭てぬぐいにて子供こどもの頭あたまから自分ぶんの肩かたにかけて、前まえにて結び首くびのぐらぐらせぬやうになさい、又赤兒あかごの内うちは眠ねむらないでも首くびがぐらぐらするから氣きをつけねばなりません。

五、子供こどもを負おふて走はしつたり、子供こどもの頭あたまのはげしくゆれるやうな遊あそびをしてはなりません。

六、鼻緒はなぢの切れさうな履物はきものや、齒はのかけた足駄あしだを

はいて子供こどもを負おふて歩いてはなりません。

七、子供こどもを負おふて物ものにもたれたり、つつぶして寐ねたりしてはなりません。

八、負おふた子供こどもをおろす時は、なるたけ人に手傳てづかつてお貰もらひなさい、若もし人の居いらない時は、しやがんで軟やわい敷物きものの上うへにおろすのです、立つたままするするとおろしてはいけません、

九、子守こもりが子供こどもを負おふ時は一尺五寸位いちじゆうごせんばいのきれいな布ぬを肩かたにあて、負おひなさい。

十、子守こもりは髪かみの毛けをみだして子供こどもを負おふてはいけません。

十一、頭髮とうはつは悪わるい臭においのせぬやうに、おりおり洗あらいなさいしかし香におのする油あぶらなどつけてはなりません。

第三、子供こどもを抱いだく時の心得

一、子供こどもを抱いだくのにあまり固かたくしめてはなりません、又片手またかたてに物ものを持つたま、抱いだくのもいけません、必かならずらず兩手りゆうてで工合ぐあひよく抱いだくのです。

二、子供こどもを抱いだいて歩く時はよく足元あしもとに氣きをつけ物ものにつまづかぬやうになさい。

三、子供を抱いて居て、湯茶を呑んだり、あぶない物を持つたり、子供のためによくない食物をたべて見せてはなりません。

四、子供を抱いて飛び歩いてはいけません。  
五、子供を抱くにはしやがんで、片手を子供のおしりの下へ入れ片手は背をおさへて抱くのです。立つて居て手を持つて引上げてはいけません。

第四、子供を遊ばせる時の心得  
一、子供をおろす前、近所にあぶないものや、きたないものがあるかないかをよく調べた後でおろしなさい。

二、子供を地上におろすのはよくありません必ずきれいなしきものゝ上におろして遊ばせるのです。

三、子供をおろすに完全な場所でも近くに材木や小砂や大豆や糶などのほしてあるところはいいけません。

四、子供を椽などの高い所におろした時は少しでも、其側をはなれてはなりません、

五、子供をおろした時は、おしりや足の冷えぬや

うにするのです。夏でもむき出しはよくありません。

第五、多勢の子供を一所に遊ばせる時

一、多勢の子供を一所に遊ばせる時は、自分の子供がよろぶとも他の子供にけがをさせるやうな心配のあるものを持たせぬ様になさい。

二、子供同志の近よつた時特に氣をつけねばなりません、他の子供の眼をついたり、口の中へ指を入れてけがをさせるやうな事が時々あります

三、子供同志で玩具の取換をさせぬやうになさい又他の子供の玩具を借りて與へるのもよくありません。

四、子供に食物を與えるには、他の子供にも少しづつ分けて與えるのです、自分の子供にばかり與へて、他の子供に見せて居るのはよくありません。

第六、子供を歩ませる時の心得

一、子供の歩み初めは、兎角うしろへ倒れ、ひどくおしりをうつことがありますから氣をつけな

くてはいけません。

二、子供の手を持つて歩ませる時は、其の手を高く引き上げ又は強く引ばつてはなりません。

三、子供を歩ませる時地上をはたしで歩ませてはいけません。

四、子供に不相應な重い履物や、大きな履物をはかせてはいけません。

五、子供を歩ませる時には、足元をよく見て、つまづきたはれないやうに氣をつけるのです。

第七、子供の泣く時の心得

一、負ふた子供が泣くからとて、妄りに振り動かしてはいけません、それ／＼手當をしてきげんを直さなくてはなりません。

二、守りは子供の泣き聲を聞き分けて手當をしてくれるのが必要であります。

三、生れてから六ヶ月位たつた子供の泣き聲を聞き分けて見れば六ツほどあります。

(一)自分の思ふやうにならない時は、はげしく泣きさげびますこの時はしづかになだめるのです。

(二)あくびしては泣き、泣きてはあくびするのはねむたい時であります、この時は静かに頭をなで、軽く脊中を叩いてやるのです。

(三)なみだも出すなるとなくあわれさうに泣くのは腹のへつた時でありますから早く乳をくれなくてははいけません。

(四)泣き聲が耳をさすやうな高い聲でじれて泣くのは、齒か耳のいたい時でありますから、醫者に見てもらふやうになさい。

(五)泣き聲がやんだり泣いたりして、兩足を縮め力をこめて泣くのは腹の痛む時です、藥をくれるか醫者に見てもらふか、早く手當をしなさい。

(六)其の外からだに故障がある時は其の局部によりて泣き方が違ひます、氣をつけて見なくてははいけません。

四、生れて一ヶ月後の幼児の泣き方にも六ツあります。

(一)眼を開き涙を多く出し、中聲で泣く時は、身體に痛み所のある時です、この時は直ぐに

下して身體を調べ、工合を直して負ひかえなさい。

(二)眼を開き涙を出さず、頭を左右に動かして泣く時は退屈したので、この時は脊より下して抱き歩き、玩具、小鳥、花物、草木等を見せなさい。

(三)眼を細め眼中に少しくうるみを生じて泣くのは、眠くなつた時です、この時は静に寢臺に寝せるか、又は負ひ直して頭を軽く撫でるのがよろしい。

(四)眼を開き涙を少し出し、聲に節をつけて泣くのは、腹のへつた時か水を呑みたい時です、この時は早く乳か水を與ふるか、又一時を凌ぐには煮へたぬるま湯を與へなさい。

(五)眼をあいたりふさいだりして涙を出さず、力をこめて身體を活潑に動かし、高聲を發して泣く時は身體の發育に必要ある時です、この時は十分間程そのまゝ泣かせ聲の低くなつた時抱いて玩具、繪紙、小鳥、草花等を見せるのがよろしい。

(六)急に高い聲を出し、身振ひして泣くのは、まわりにあるものを見て驚き恐れた時です、この時は直ぐに脊より下して、手拭か自分の袖を子供の顔にあてて他に所くのです、又まわりにある物に氣をつけないさい、子供の夜なきは、此様な時に生ずるのが多い様です。

第八、兩便の時の心得

一、大便や小便の時をはずさぬやうに氣をつけないさい、若し取はづした時はすぐに掃除をして、子供のものはきれいに洗ふのです。

二、大小便をさせる時に子供のからだの工合をよくしておやりなさい、お尻をつきだし、からだをねせたやうなふうにして、やつてはいけません。

三、子供に大小便をさせるには、成るだけ便所にさせるのです、止むを得ない時でもなるだけ人目にかからぬ所がよろしい。

四、兩便所は汚さないやうに注意なさい。

第九、しめし取扱の心得

一、しめしは成るだけ丁寧に洗ひいつもきれいに

しておくのです。

二、しめしがぬれたり汚れたりした時はすぐに取りかへなくてははいけません、又その汚れた時は直ぐにお洗ひなさい。

三、しめしは必ず繩を張るか、又は竿にかけて人目にかからぬ所にほすのです、地上にほすのはよくありません。

四、しめしをほしたら、よくたたんで、定めた入れ物に入れて置くのです、必ず取散して置いてはいけません。

五、子供のしめしを取かへる時はよくもみやわらかにして、あてなくてははいけません。

第十、子供に與へる飲食物の心得  
一、乳兒の中は凡そ其の時刻を定めて家に歸り、乳を與へるのです、時間をきめずに與へるのはよくありません。

二、子供が飲食をするやうになつても時間をきめずにやたらに與へるのはよくありません。

三、子供に固い食物や消化のわるい物を與へてはなりません、又かたい食物を自分がかみくだい

てたべさせるのもよくありません。

四、子供に甘つたるい餡の多い餅菓子類は、よくありません、又果物の熟さないのはよくありません。

五、人が子供に物をくれた時は、自分が受けて禮をのべ後子供に與へるのです、他人から貰つたものは家に歸りそのわけを子供の親に話して、後子供に與へるのがよろしい。

第十一、玩具の心得

一、玩具は子供の教のたすけとなり、又運動にもなりて、筋肉の發達を助けるものであるから、其の種類は撰ばなくてはなりません。

二、子供に與へる玩具は、ブリキ細工や硝子細工の玩具はよくありません、木製、ゴム製、瀬戸焼、繪本などがよろしい。

三、子供に玩具を持たせて、猥りにさしずかまじき事をしてはよくありません、又一度に幾種も與へぬがよろしい。

四、子供が一ツの玩具に飽た時は取り換えておやりなさい。

五、玩具はなるべく大切にさせるやうになさい、若しこはした時はそのわけを父母に申し上げるやうになさい。

六、他の子供の玩具を自由に使はせてはいけません。

七、子供が他人の玩具を持つたり、あぶない物を持つた時は、そのわけを説き聞かせて、他の品物と取換へなさい、無理に取つたり、うそをいつて取るのはいけません。

八、子供が玩具を使つた後は、自分でかたづけ、始末するやうになさい、けれども出すときは、

子守が出してやるのがよしい。

九、玩具は妄りに與へるのはよくありません、その場所にあつた時か眠りのさめた時など、それ相應の玩具を與へるのがよしい。

十、子供がほしがらからといつて、名も知らぬ草木や木の實を與へてはいけません、毒のあるものがあるからよく氣をつけなさい。

第十二、子供の身體を清潔にする心得  
一、子供の手の指は、たび／＼洗つておやりなさい。

い、汚きものや毒のついた物を持つたり、握つたりすることがありますから氣をつけねばなりません。

二、子供は鼻汁をよく出し、たびたび拭つておやりなさい、又顔もおり／＼洗つておやりなさい。

三、子供の手足の指の爪はたび／＼切つておやりなさい。

四、子供が食事をした後は、清潔な布で口の周圍を拭つておやりなさい。

五、子供の耳の垢はおり／＼取らねばなりません、しかしこれは危いからよほど氣をつけなさい。

六、子供を湯に入れた時は、首、腋の下、股、指の間等はよく洗ふのです、頭は別に湯を取つて洗ひなさい、又湯から上げた時は、乾いた手でよく拭くのです、濡れたままで、着物を着せるのはよくありません。

七、子供の下着はたび／＼洗つておやりなさい。